

医療関連感染防止の 最近のトピックス

～外科手術関連感染・血管内留置カテーテル関連感染を中心に～

山形大学医学部附属病院検査部・感染制御部 森兼 啓太

KEY WORDS

- 手術部位感染
- カテーテル関連血流感染
- 消毒薬
- ドレッシング

Current topics on the prevention of healthcare-associated infections: surgical infection and intravascular-related infection.

Keita Morikane (部長)

はじめに

医療関連感染(healthcare associated infection ; HAI)防止の基本は、手指衛生を中心とする標準予防策であることはいままでもなく、いわば不変の原理である。一方、近年得られた知見に基づく日進月歩な要素もあり、本特集でも環境整備や洗浄・消毒・滅菌などにその一端をうかがうことができる。

本稿では、外科手術と血管内留置カテーテルに関連するHAIについて、最近のトピックスを紹介する。

I. 手術に関連するHAIの防止

1. 3つのガイドライン

術後はさまざまなHAIが発生しうるが、なかでも手術部位感染(surgical site infection ; SSI)は頻度が高く、かつ重大な有害事象である。SSIの防止に関しては、米国疾病予防管理セン

ターのSSI防止ガイドライン(1999年版)(以下、CDC1999)¹⁾が標準とされてきた。解説も含めて全文が日本語訳され、学術誌にて公開された²⁾³⁾こともあり、日本の標準的SSI対策として活用されてきた。その後、さまざまな新しいSSI防止対策が提言・検証され、その有効性に関するエビデンスが示されたものはすでに臨床現場で活用されている。しかし、このガイドラインはなかなか改訂されなかった。2010年代に入り、それらの新しい対策を中心に検証が行われ、2017年に部分的更新として発行された(以下、CDC2017)⁴⁾。

それと相前後して2つの組織からSSI予防ガイドラインが発行された。1つは、2016年11月、世界保健機構(World Health Organization ; WHO)が発行した「Global Guidelines for the Prevention of Surgical Site Infection」(以下、WHO2016)である⁵⁾。2つめは、2016年12月に米国外科学会と米国外科感染症学会が合同で発行したガイドラ